

3) 塩分珪酸塩の分布から沿岸表層の海流を概定する

便法

塩分珪酸塩の分布も海流も定常であるとして、垂直方向の流動を無視し、塩分と珪酸塩  $P$  の乱渦に依る擴散の式を  $u \frac{\partial S}{\partial x} + v \frac{\partial S}{\partial y} = \frac{k'}{h} \frac{\partial^2 S}{\partial x^2}$ ,  $u \frac{\partial P}{\partial x} + v \frac{\partial P}{\partial y} = \frac{k'}{h} \frac{\partial^2 P}{\partial x^2}$  (但し表層の厚、 $k'$  擴散の係数、 $h$  は垂直方向) とすれば、 $S, P$  の分布から  $u, v$  が解る。 $k'$  は別に決める。又軸の取り方で上式は全く作圖のみによつて解くことが出来る。此の方法を昭和八年九月相模湾で行つた觀測の結果に應用し、前に Knudsen の法を擴張して推定した海流及び模型實驗

挿入面は白紙に墨書して添付して下さい

総編集先 ● 東京市丸の内有樂館工政會出版部 電氣工學編輯部 (電話丸の内 3980)

で得た海流と大した矛盾のない結果が得られることを示した。(岡田光世)